第８回平取ダム地域文化保全対策検討会

アイヌ文化環境保全対策調査室関係資料

平取ダム地域文化調査業務の概要
中間報告

2009（平成21）年1月25日中間報告

《 本 編 》

資料－２
第8回平取ダム地域 文化保全対策検討会 平成21年1月25日

業務分野			ページ番号
1	精神文化現地調査		1
2	（1）	生物の生存環境調査 有用植物保全モデル地区現地調査	2-(1)
	（2）	生物の生存環境調査 工事による改変カ所現地調査	2-(2)
3	生活文化現地調査		3
4	地域文化保全対策調査		4
5	（1）	栽培実証試験 有用植物移植栽培試験	5-(1)
	（2）	栽培実証試験 有用植物移植栽培試験 モニタリング調査	5-(2)
	（3）	栽培実証試験 栽培工程の条件調査	5-(3)

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	１－精神文化現地調査
目的／課題	○平取ダム建設予定地周辺に存在するアイヌ民族の信仰観に根ざした精神文化について、当事者性を有する人たち等からの聞き取り調査や文献調査を行い、祈りの内容や所作の調査を行う。また、当事者性を有する人たちから、精神文化の保全対策について意向調査を行う。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○精神文化の保全対策について、一定の協議を経て当事者性が強い人々をはじめとする関係者の合意形成が可能となりうる検討素案を提示する。
調査方針・方法	○聞き取り調査 ◇儀礼（祈りの内容や所作）に関する聞き取り ◇精神文化保全対策意向調査 ＝シミュレーション的な手法による判断素材を提示しながら ○現地踏査 ◇保全対策案を練るための現地ワークショップ的手法を取り入れながら ○文献調査 ○先行事例調査 ◇チノミシリ、カムイワッカ等、対象の特性に応じて保全対策の先行・類似事例を検討

年間作業工程概要

調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	→											
○聞き取り対象者絞込みと準備	→	→										
○聞き取り調査		→	→	→								
○聞き取り調査データ整理		→	→	→	→	→						
○現地踏査		→	→	→	→	→	→	→	→			
○文献調査		→	→	→	→	→	→	→	→			
○先行事例調査		→	→	→	→	→	→	→	→	→		
○保全対策検討		→	→	→	→	→	→	→	→	→		
○意向調査とその分析			→	→	→	→	→	→	→	→		
○成果の取りまとめと報告作成							→	→	→	→	→	

作業行程上の留意点	○「聞き取り」対象者の選定を慎重に。 →　キーワード＝「当事者性」 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。
主担当	◎木村
副担当	○貝澤（朱）　○織田
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考 （今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（H21年1月時点）

■１=１２月までの作業状況写真

◆体験者の指導を受けながらの作業状況

◆カムイワッカの水量調査と監視作業

◆祈りの内容や所作に関する現地調査

◆祈りの内容や所作に関する事例調査

【萱野茂　2007年『萱野茂のアイヌ語辞典　増補版』三省堂P143、P187】より

◆祈りの内容や所作に関する文献調査

◆既存データ整理作業

■２=進捗状況と成果

◆『総括報告書（H15～17年度）』や既刊の『調査班報告書（H18、19年度）』をもとに祈りの内容や所作について詳細な情報を把握するために既存のデータ（聞き取りテープおこしデータ、録音ビデオ）等から情報を抜粋し、整理・分析作業を行ってきた。
◆聞き取り調査の質問事項検討の際や今後の精神文化についての保全対策検討のための参考資料として文献調査や先行事例調査を行ってきた。
◆第７回検討会までの精神文化に関する協議を踏まえ、保全対策を具体化し、イメージ（図像）などによりわかりやすく提示するための条件を整える作業を行ってきた。

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など

◆聞き取り対象者（当事者性が強い人々をはじめとする関係者）との調整作業
◆意向調査、先行事例調査などをふまえたシミュレーション的手法による判断素材の提示
◆意向調査の分析作業→保全対策案について、当事者性が強い人々をはじめとする関係者の合意形成が可能となりうる検討素案の提示
　←ウタリ協会支部要望との調整

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver.2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	**２－生物の生存環境調査（１）＝有用植物保全モデル地区現地調査**
目的／課題	○有用植物保全モデル地区（５カ所程度）のアイヌ文化に有用な植物（木本、草本）について、詳細な育成状況（種、数量、位置等）を把握する。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○Ｈ19年度調査による成果をふまえ、より詳細に植生・分布状況（種、数量、位置等）等を把握し明示した現況の図版と解説文
調査方針・方法	○現地踏査＝有用植物保全モデル地区の詳細な調査により種、数量、位置等を把握する。 ○調査・分析は、平取ダム地域文化保全対策検討会において協議・確認された方針にそって行う。 　◇展示目的（種の多様化）には「有用植物全体リスト」に対して不足するもの、 　◇増殖目的（量的増大）には「代表的植物リスト」に対して不足する当該植物について、補植による保全管理を行う。なお、補植時期については試験湛水時期を考慮する。（第６回平取ダム地域文化保全対策検討会資料３−５参照） ○平取ダム自然環境調査の成果に留意し、調整を図る。
年間作業工程概要	（下表）
作業工程上の留意点	○種、数量、位置等の調査対象となる植物種を絞り込む。 ○第１のポイントは、モデル地区として設定した方向に適合しているかどうか。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。
主担当	◎川島
副担当	○井澤　○貝澤(朱)
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考 （今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（Ｈ21年1月時点）

年間作業工程概要

調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	●	→										
○現地踏査（草本）	●	―	―	―	―	―	―	→				
○現地踏査（木本）	●	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→	
○図版作成		●	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
○解説文作成		●	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
○成果の取りまとめと報告作成							●	―	―	―	―	→

■１=１２月までの作業状況写真

◆辻井先生からの全木調査指導 S-05

◆胸高樹径調査作業 S-05

◆モデル地区内草本調査

◆モデル地区内草本調査 S-05

◆モデル地区内状況調査 N-03

◆調査結果検討のためのワークショップ

■２=進捗状況と成果

◆モデル地区−２（Ｓ−05）において、
木本・草本の詳細調査・胸高樹径（地上130cm）１cm以上は印を付ける。
・１cm以下のものは観察記録のみ。
・草は名前をすべて記録。
・５ブロックを設定、調査は終了→　林相図として図示
木本・草本の全木調査・胸高樹径（地上130cm）20cm以上のものとする。
・有用植物については胸高樹径（地上130cm）5cm以上のものとする。
・草は名前をすべて記録。
◆モデル地区−1（Ｎ−03）において草本調査　◆モデル地区−3（Ｓ−11）において草本調査
◆水生植物保全モデル地区（Ｓ−10）において草本調査　◆スプキ（ヨシ）保全モデル地区（Ｎ−08）において草本調査

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など

◆詳細調査や全木調査をＳ−05区域においておこなってきたが、「モデル地区」として整備を進める条件を備えた適地であり、今後の継続的調査・対策の推進が必要であり、十分可能

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	**２－生物の生存環境調査（２）＝工事による改変箇所現地調査**
目的／課題	○平成20年度以降の工事工程をふまえ、工事による改変箇所のアイヌ文化に有用な植物で将来アイヌ文化伝承に活用でき、移植可能な植物の育成状況（種、数量、位置等）を把握し、必要に応じて移植試験を行う。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○19年度道路工事区域の調査に準じて、植生・分布状況（種、数量、位置等）等を把握し明示した現況の図版と解説文 ○19年度道路工事区域の移植試験に準じて必要・可能な植物を移植
調査方針・方法	○現地踏査（改変箇所育成状況把握調査） 　◇Ｈ18～19年度道路工事区域の調査に準じて行う ○現況を示した状況図等作成 ○有用植物移植試験（稚樹、伐株、木彫用） 　◇Ｈ19年度道路工事区域の移植試験に準じて行う 　◇移植方法等についての先行事例調査・検討 　◇移植作業の過程についての経過観察・記録

年間作業工程概要

調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	●→	→										
○改変箇所現地調査	●→	→	→	→	→	→						
○有用植物移植調査	●→	→	→	→	→	→						
○移植作業	●→	→	→				●→	→	→	→	→	
○成果の取りまとめと報告作成							●→	→	→	→	→	

作業工程上の留意点	○移植可能な植物種の絞り込みが緊要である。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。
主担当	◎井澤
副担当	○川島　○織田
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考 （今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（Ｈ21年1月時点）

■１=１２月までの作業状況写真

◆工事用道路2の植物調査状況

◆付替道路工事箇所選定樹木リボン付け作業

◆作業ヤードの移植希望樹木選定作業

◆工事による改変箇所での現地協議

◆付替道路工事箇所稚樹移植作業

◆付替道路工事箇所の草本ブロック移植作業

■２=進捗状況と成果

◆付替道路工事箇所、工事用道路、迂回路周辺において現地調査を実施し、現地における植生を把握

◆各改変箇所において、移植可能と思われる植物の選定作業を実施し、状況図を作成　→　計11カ所

◆付替道路工事箇所500-700においては、移植可能な樹木・草本を選定し、３種８本の樹木と１m四方３ブロックの草本をS-05へ移植

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など

◆工事箇所斜面では、牧野林が活力をもって再生しているので、今後改変箇所周辺においては、周囲の環境に配慮する必要

◆綿密な事前協議の必要性
　←工事箇所に関する（とくに緊急性の高い）調査のフロー（流れ）、ルール（約束事）、システム（しくみ・体制）などの検討、確立
　＊埋蔵文化財調査の事例なども参考に

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	**３－生活文化現地調査**
目的／課題	○アイヌ文化期にかつて行われていた栽培様式（川洲畑）について、栽培様式を伝承する際の基礎資料とするため、聞き取りや現地調査等に基づいて栽培実験（２カ所程度）を行い、生育状況を把握する。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○今後継続的に利用しうる川州畑作業地 ○川州畑による各種作物の収穫物（種子等） ○作業過程と成果の記録、その分析の報告
調査方針・方法	○現地踏査 ◇現地ワークショップ的手法を取り入れながら ○栽培実験（２カ所程度の川洲畑） ○聞き取り調査 ○文献調査 ○先行事例調査

年間作業工程概要

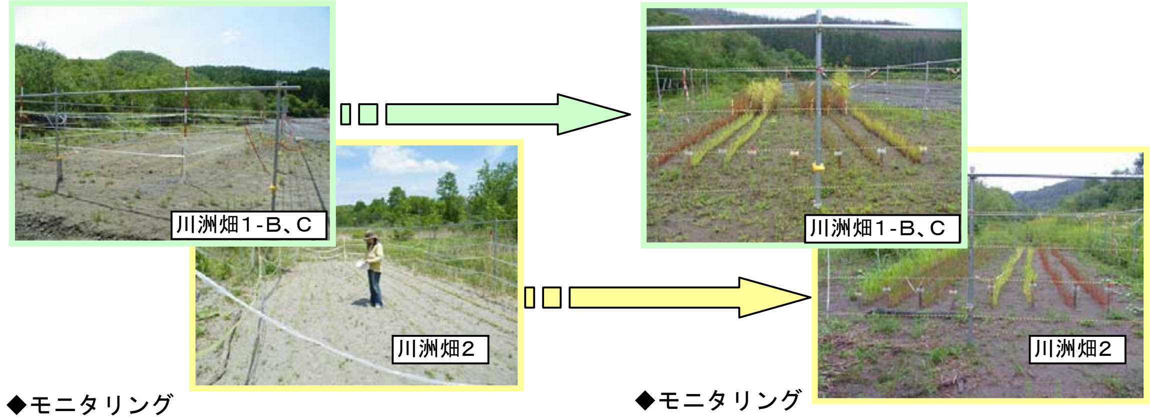
調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	●	→										
○川洲畑候補地現地調査	●	→										
○川洲畑準備および種蒔き	●	→										
○管理（生育状況確認/月１回程度）	●	→	→	→	→	→	→					
○聞き取り調査	●	→	→	→	→	→	→					
○聞き取り調査データ整理	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
○収穫作業						●	→					
○先行事例調査	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
○成果の取りまとめと報告作成							●	→	→	→	→	

作業工程上の留意点	○作業地の選定を早急に行う。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。
主担当	◎長野
副担当	○鈴木　○笠原
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考 （今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（H21年1月時点）

■１=１２月までの作業状況写真

◆候補地の絞込み（７カ所→２カ所）

◆栽培実証試験（耕起＆種蒔き作業）



◆モニタリング

◆モニタリング

◆ピパ（貝）※収穫に使用する道具作り

■２=進捗状況と成果

<進捗状況>
◆聞き取り調査を５回実施し、それをふまえて作業を実施
◆管理－生育状況は播種日（５月14日）の次の週から６月11日まで毎週確認。その後は隔週とした。（大雨による災害により確認できない週あり）９回実施
◆収穫（９月12日実施）
◆文献調査、先行事例調査→　データの蓄積作業中
<成果>
◆聞き取り調査のデータ（聞き取りテープ、記録画像等）
◆現地で伝承者から指導を受けるワークショップ（合同研修）的手法を重視→　聞き取り協力者の指導により効果的に
◆収穫物→　次年度の種として保存

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など

◆川洲畑の実施カ所の検討→　実施箇所が遠いため管理作業が難しい
　→　他地域での川洲畑実施箇所の検討
◆種の確保と選定（川洲畑には穀物だけを限定して蒔くなどの方法上の工夫）
◆作業過程・成果の記録と整理・分析→　マニュアル化

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver.2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	**４－地域文化保全対策普及調査**
目的／課題	○地域文化保全対策普及方策の基礎資料とするため、平成19年度に取りまとめたアイヌ語地名について、一般配布できるように加工（パンフや小冊子等）し、それを地域のゆかりのある人々に配布、アンケート調査を行い、資料をまとめる。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○普及啓発用アイヌ語地名・地図付きパンフ（暫定版？） ○アイヌ語地名に関するアンケート調査の結果集約・分析とその報告
調査方針・方法	○これまでの地名調査の成果に依拠して取り組む。 ◇とくにH18～19年度に構築されアイヌ語地名データベースを補充しつつ、その成果を活用するという観点で作業を進める ○アイヌ語地名を、そのもととなっている地形・環境等とともに保全し、定着させるための方策を探ることを目的として実施するアンケート調査である。 ◇例えば、「アイヌ語地名が重要だと思うか否か」というように、事業者側にとって自明で前提的なことをあらためて尋ねる設問とはならない

年間作業工程概要

調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	●	→										
○アイヌ語地名普及啓発資料作成		●	→	→	→	→						
○アンケート調査内容検討				●	→	→						
○アンケート調査実施							●	→	→			
○アンケート集計作業							●	→	→	→		
○成果の取りまとめと報告作成							●	→	→	→	→	

作業工程上の留意点	○パンフ掲載の対象となる地名を早急に、わかりやすさを旨に選定。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。 ◆北海道大学アイヌ・先住民研究センターの協力によるアイヌ語監修。
主担当	◎長野
副担当	○鈴木　◇吉原　　◆川上
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考 （今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（H21年1月時点）

■１=１２月までの作業状況写真

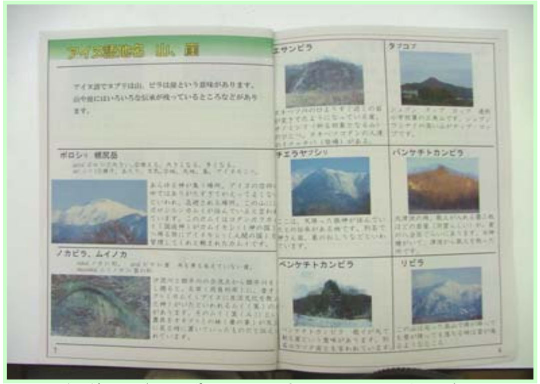
◆伝承地・文化景観についての現状把握作業

◆地名・文化景観保全策検討のための現地踏査

◆アイヌ語地名データベース活用方法検討作業

◆大きなマップで普及啓発内容・方法を協議

◆データベースは随時に更新・調整作業を継続


◆地名普及啓発パンフ原案のレイアウト例

■２=進捗状況と成果

◆前年度までに基礎を構築したアイヌ語地名データベースをもとに、普及啓発用印刷物の内容を検討し、原案を作成した。

◆アイヌ語地名に関するアンケートの内容・方法を準備中である。（２月に実施予定）

◆デジタル媒体・ネットワークを通じてアイヌ語地名データベースに蓄積された情報を普及・活用する方法につい検討中。

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など
◆印刷物のイメージ、内容、活用方法についての詰めの調整をいそぐ

◆精神文化、文化景観、生物の生存環境などとアイヌ語地名の関連づけ・分析が必要

◆データベース活用・公開の方針を定め、運用に向けてハード、ソフトの両面から準備
→　アイヌ語地名の取り扱いに即した技術とルールの開発・策定

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	**５－栽培実証試験（１）＝有用植物保全モデル地区栽培試験**
目的／課題	○有用植物の保全対象候補地で育成することができる木本及び草本の種や数量等を検討する基礎資料とするため、有用植物保全モデル地区（５カ所程度）において、春期から秋期までの間、アイヌ文化に有用な木本と草本の栽培実証試験を行う。また、二風谷地区では播種の栽培実証試験を行う。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○植物種別ごとの経過観察と記録 ○モデル地区別、あるいは栽培・半栽培・保護等の保全方法別の経過観察と記録 ○試験作業を実施した結果としてのモデル地区整備 　◇今後における保全対策の基盤となる
調査方針・方法	○２－生物の生存環境調査（１）＝有用植物保全モデル地区現地調査と並行・連動させ、その成果を適時に活用しながら作業を進める、 ○調査・分析は、平取ダム地域文化保全対策検討会において協議・確認された方針にそって行う。 　◇展示目的（種の多様化）には「有用植物全体リスト」に対して不足するもの、 　◇増殖目的（量的増大）には「代表的植物リスト」に対して不足する当該植物について、補植による保全管理を行う。なお、補植時期については試験湛水時期を考慮する。（第６回平取ダム地域文化保全対策検討会資料３－５参照） ○現存する有用植物の生育環境を維持・支援していく半栽培の方法を取り入れた保全管理を行う。

年間作業工程概要

調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	●	→										
○木本、草本の選定作業	●	→										
○木本・草本実生の移植	●	—	→									
○種子採取および播種作業	●	—	—	—	—	—	—	→				
○モニタリング（月１～２回）	●	—	—	—	—	—	—	→				
○現地踏査	●	—	—	—	—	—	—	—	→			
○聞き取り調査	●	—	—	—	—	—	—	—	—	→		
○文献調査	●	—	—	—	—	—	—	—	—	→		
○有用植物移植（稚樹・伐株移植）	●	—	→				●	—	→			
○成果の取りまとめと報告作成							●	—	—	—	→	

作業工程上の留意点	○種、数量、位置等の調査対象となる植物種を絞り込む。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。
主担当	◎川島
副担当	○井澤　○笠原
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考 （今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（Ｈ21年1月時点）

■１=１２月までの作業状況写真

◆有用植物保全モデル地区（Ｎ-03）池の草除去

◆育苗畑２環境整備作業

◆前年度播種樹木のポット移植作業

◆モデル地区（Ｓ-05）の造成・整備作業

◆育成方法検討のためのワークショップ

◆モデル地区（Ｓ-05）シカ防護ネット張り作業

■２=進捗状況と成果

◆＜多様な木本・草本類の保全モデル地区－２（Ｓ-05）＞において、ヒシ（ペカンペ）・ガマ（シキナ）・工事箇所からの木本・草本の移植を試た。
工事箇所からの木本数は３種・８本、草本は１ｍブロックを３枚。
◆＜多様な木本・草本類の保全モデル地区-1（Ｎ-03）＞において、池の中にガマを確認したので周囲の雑草の除去作業を試みた。
◆＜多様な木本・草本類の保全モデル地区-3（Ｓ-11）＞においてハルニレ（チキサニ）の実生がたくさん確認できた。→　生育環境の整備作業を試みることが可能
◆＜水生植物保全モデル地区（Ｓ-10）＞においては、大雨により川の流れが大きく変化している状況。→　試験湛水期間終了までは人為的な作業は実施しない。
◆＜スﾌﾟキ（ヨシ）保全モデル地区（Ｎ-08）＞→　生育環境整備作業を試行
◆二風谷地区においても育苗畑１・２を設営し、栽培試験を試みている。

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など

◆種の採取段階からの育苗、実生の採取・育成・再移植、稚樹の移植、伐株からの育成・移植などの多様な「栽培」方法を、樹種ごとに、また土地の条件、生育環境を考慮しながら試行していく。
◆保全対策の検討を総合的に、かつ臨場感をもって行える場として、展示・作業所を設営した。→　関係者による多角的なシミュレーション（模擬的手法を取り入れた検討）
◆仮称＜Ｅパーク＞の設営に向けた検討
　→　Ethnology：エスノロジー＝「民族学」／　Ecology：エコロジー＝「生態学」／　Eraman：エラマン＝「わかる」（アイヌ語）

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	**５－栽培実証試験（２）=有用植物移植栽培試験モニタリング調査**
目的／課題	○平成19年度に芽生貫気別線工事箇所から委嘱した、アイヌ文化に有用な植物の育成状況（新芽や根付き状況）を把握するためにモニタリング調査を行う。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○無雪期を通じた状況・経過の観察と記録、その報告 ○モニタリングの方法論を確立 　◇マニュアル、チェックリストなどの形で 　◇先行・類似事例の調査を含む
調査方針・方法	○モニタリングする事項（監視・点検事項）を検討・選定し、マニュアルとチェックリストを作成、それにしたがって定期的な観察を継続する。 ○モニタリングの対象すべてにカード（カルテ）を作成する。 　◇データベース的に個別管理のシステムをつくる
年間作業工程概要	（下表）
作業工程上の留意点	○事業着手後、できる限り速やかに現地状況を把握する必要がある。 ○新芽、根付きの状況、その他のチェック項目を早急にリストアップし、作業手順をマニュアル化する必要がある。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。
主担当	◎木村
副担当	○織田　○笠原
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考（今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（H21年1月時点）

年間作業工程概要

調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	●	→										
○マニュアル作成	●	―	→									
○チェックリスト作成	●	―	→									
○モニタリング（月２回程度）	●	―	―	―	―	―	―	―	→			
○成果の取りまとめと報告作成							●	―	―	―	―	→

■１=１２月までの作業状況写真

◆基礎データ収集作業（樹高・樹径）

◆個別管理プレート設置作業

◆育苗畑１モニタリング調査

◆育苗畑２モニタリング調査

◆S-05モニタリング調査

◆種子記録作業

■２=進捗状況と成果

◆多様な木本・草本類の保全地区モデル-２（S-05）におけるモニタリング（監視・点検事項）については、月２回（現況調査も含む）を定期化し、個別の育成状況のデータも蓄積されている
◆育苗畑１、２におけるモニタリングについては、草本類が多いため栽培目的に応じた種別対応とし、開花・種子の結実期等に配慮し、週２～３回とした
◆個別管理システム（カード形式カルテ）への個別データを入力中【データベースの形式については、今後も検討しながら作業を行う】

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など

◆蓄積された情報の分析作業（栽培方法別での生育状況＝活着率等）
◆今後（次年度以降）のモニタリングを円滑に行うために今年度、移植・栽植した種の個別データ（樹種・樹高・樹径・移植カ所・位置）の引継ぎ等→５（１）分野から
◆モニタリングを定期的、円滑に行うための栽培、移植地の検討
◆移植、栽培地の管理に関する資材・施設等の確保
◆シカ対策、活着が確認されない木本の対策等が必要→　問題点に専門的見地をふまえ随時・適時に対処していくためのワーキングチーム的な仕組みの構築が今後の課題
→　モニタリングの方法・体制の確立

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10）　１月期中間報告版
業務分野	**５－栽培実証試験（３）=栽培工程の条件調査**
目的／課題	○アイヌ文化伝承のために必要となる有用植物の資源量を想定し、それを確保できるような半栽培や播種等の栽培工程の条件を整理する。
想定する成果 ＊目標とする状況・物品	○植物に関するデータベースを構築し、その特徴やアイヌ文化にとっての有用性、栽培工程等についての情報管理を容易に行えるようにする。 ○アイヌ文化伝承のために必要となる「有用植物」の資源量に関するシミュレーションを行い、その結果を提示する。
調査方針・方法	○植物に関するデータベースを作成する。 ○「有用植物」の資源量に関するシミュレーションを行う。 　◇アイヌ文化「伝承」そのものの将来像を問うことになる 　◇「有用」性の内容を具体的に示す必要 　◇イオル構想など、他の施策・事業との調整を図る必要 ○上記のことをふまえ、栽培工程の諸条件を整理し提示する。

年間作業工程概要

調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○年間作業計画検討	●━	━▶										
○植物データベース構築作業		●━	━	━	━	━	━	━	━	━	━▶	
○植物資源量シミュレーション		●━	━	━	━	━▶						
○栽培工程諸条件に関する整理				●━	━	━	━	━▶				
○成果の取りまとめと報告作成							●━	━	━	━	━▶	

作業工程上の留意点	○作業を優先させる植物種の絞り込みを先行させる。 　プライオリティ（優先性）の判断がポイント ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。
主担当	◎貝澤(朱)
副担当	○川島　○長野
作業チーム構成	＊チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置
備考 （今後の展開上の留意点等）	○検討会において協議されてきた保全対策の方向性・方針とウタリ協会支部要望事項との調整、それをふまえた具体案の提示が緊要な課題である。（H21年1月時点）

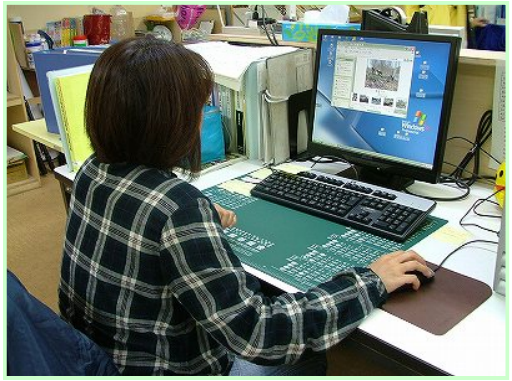
■１=１２月までの作業状況写真

◆播種作業、新芽確認作業

◆育苗畑環境整備、下枝刈り

◆育苗畑環境整備、苗木移植作業

◆水生植物モニタリング


◆植物育成工程のデータ・ベース作成作業

◆植物育成工程等の検討作業

■２=進捗状況と成果

◆調査室で試みている栽培・半栽培の方法（播種、稚樹・切株移植等）について、モニタリングを通じて状況把握し、分析を行っている。これをふまえて、栽培の工程・方法等について整理をしている。
◆成果として、木本・草本の各種ごとに、適切な栽培・半栽培の方法（ノウハウ）を構築するためのデータを蓄積しつつある。

■３=今後における作業上の留意点、要検討事項など

●要検討事項等
◇主として「展示目的」→　できるだけ種類を増やしていく観点と
主として「増殖目的」→　需要の大きいものを増やしていく観点
両方の目的とバランスを考慮した総合的な保全計画の策定
◇植物資源の「量」と「質」の評価
→　とくに数量的な目処をたてる際の検討要因
　①植物資源に対する需要　　②利用可能な土地面積、条件
　③育成方法・工程の成熟度　　④伝統的自然観との整合・調整
　⑤社会法規・倫理との整合・調整